



西前小だより



横浜市立西前小学校 Web: <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>

なつやすみ おもいで
夏休みの思い出

こうちょう とりかいのぶゆき
校長 鳥飼信幸

7月から夏休みに入ります。昨年度と違い、今年度は例年通りの夏休みとなります。どの子どもも充実した日々を過ごすことを期待しています。何か自分が挑戦したいことに取り組むよい機会です。

保護者、地域の皆様、区役所の方々、専門機関等の皆様、夏休み期間中も、引き続き子どもたちを温かく見守っていただけることに感謝いたします。

私の5年の夏休み、「デザイン画を描いてみよう」と思い、「何をデザインするのか」から考えました。母の故郷、長崎の島原にはきれいな海とたくさんの魚がいました。母は病弱なので、この年の夏休みには島原には行くことができませんでした。そこで、母を喜ばせようと、島原の海と魚をイメージした作品にすることにしました。母に大好きな島原の海のことや魚のこと、また、魚の特徴、色、形等を細かいことまで聞きました。今まで行ったこともない図書館へ行って図鑑を見て調べました。何日もかけて下描きをして、デザインを決め、色を塗り、その絵を切って、台紙に貼る作品にしました。そこで、頭の部分をつける作品か、頭の部分を抜いた作品にするか悩みました。頭をつけたりとったり、何日も悩みました。母に「どっちがよいか」と聞きました。すると母は「あなたのよかほうでよか」と答えました。「頭をとるか」と決め、学校へ持って行きました。先生に提出すると、「頭はなかとか」と言われました。私は「なか」と答えました。先生は「頭のなか魚はおらんぞ」と言い、棚の上に放り投げました。私は内心、ショックでした。「母の故郷への思いが詰まっている作品をこんな扱いされた」と。先生がいない時に、棚から下し、持ち帰ろうとしているところを、3・4年生の時の担任の先生に見つかりました。「鳥飼、なんぼしょつと。」「自分の絵を持って帰ろうと思って。」「見せんね。」「よかデザインじゃないか。頭がなくてギザギザになって、色もよか」と褒めてくれました。そして、「お母さんは元気か」と言われました。その言葉で涙が出てきました。故郷へ帰省できない母の思いや母の大好きな島原の海と魚、そして、私が決断して完成させたデザインへの思いが否定された気持ちが入り混じっていたのでしょう。「鳥飼、泣かんでよか」と先生は言いました。次の日、担任の先生に呼ばれ、「魚の作品を持ってこんね」と言われ

ました。そして、「作品展に出すばい」と言われました。3・4年生の時の担任の先生が、何も言わずに泣いた私の思いを察したのでしょうか。母に「作品展に出るばい」と言いました。「よかったね」と母も喜んでくれました。だけど、作品展の会場等は知らせませんでした。病弱の母は、そこまで行くことができないからです。後日、大きな賞状をもらい、母に見せました。その絵のタイトルは「母の大好きな島原の海と魚」にしました。

私は教師になった時、子どもの心を思いやれる教師になりたいと思っていました。しかし、なかなかできません。今でも修行は続いています。コロナ禍の今、人を思いやれる心の教育の大切さを感じています。西前小学校の子どもたちが今まで以上に上にもっともっとやさしい心をもった子どもたちになることを願って今日も教育活動をしています。

夏休み明けからもまた、子どもたち、保護者、地域の皆様、学校職員、区役所の方々、専門機関等の皆様の笑顔のために頑張ります。

学校ホームページへのアクセスはこちらから→



【夏休みの過ごし方について】

夏休みの過ごし方については、配付しましたプリントをご確認ください。
緊急の場合の連絡先なども掲載しています。よろしくお願いします。

【新型コロナウイルス感染症に関する連絡について】

新型コロナウイルス感染症に関連してお子様ご本人や同居のご家族が PCR 検査を実施した場合、または、濃厚接触者と認定された場合は、必ず学校までご連絡をお願いします。閉庁期間は横浜市教育委員会事務局（東部学校教育事務所）が連絡を受け付けます。

横浜市教育委員会事務局 東部学校教育事務所 電話 411-0608

※緊急のご連絡以外の電話連絡はご遠慮いただくようお願いします※

夏休み中も緊急の連絡をメール配信や学校ホームページで行うことがあります。随時ご確認くださいようお願い致します。